

課 題 名：Social Distancingによる社会の脆弱性克服・社会的公正の回復と都市の再設計

代 表 者：林 良嗣（中部大学 持続発展・スマートシティ国際研究センター 卓越教授）

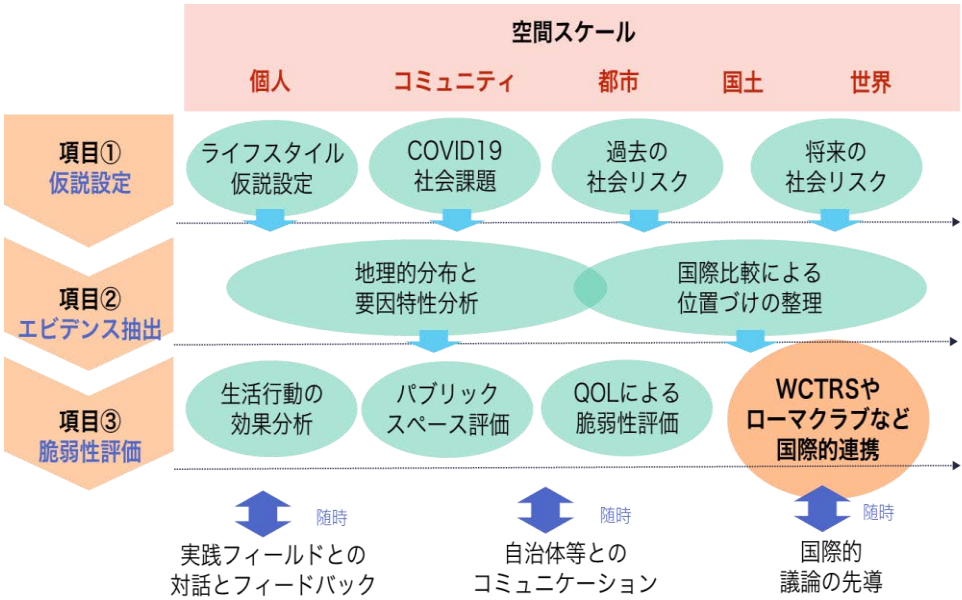
参画機関：中部大学 持続発展・スマートシティ国際研究センター, 広島大学大学院先進理工系科学研究科, 名古屋大学大学院工学研究科, 東京大学大学院工学系研究科, 大日本コンサルタント株式会社



課題概要

COVID-19感染対策として多くの国がフィジカルディスタンスの確保を推進している。しかしそれが逆に、家族、職種、地域コミュニティの分断や格差などの課題を生み、感染症対策に対する都市・社会の脆弱性が浮き彫りになった。

本プロジェクトは、フィジカルディスタンスが個人や社会にもたらす影響について、位置・居住・空間利用、経済、環境などに関する都市圏データとともに、位置情報に基づく人々の行動変容のビッグデータ、暮らしや医療へのアクセシビリティなど人のQOLに関する価値観データを統合的に分析し、諸外国との比較も行いながら、科学的エビデンスを抽出する。それらを基に、倫理的・法制度的・社会的観点にも配慮した距離の取り方をソーシャルディスタンスと定義し、それに基づく対策や行動変容の手法の検討、都市・コミュニティの脆弱性や社会的公正の視点に立った都市再設計の手法開発を行う。



研究開発フレーム

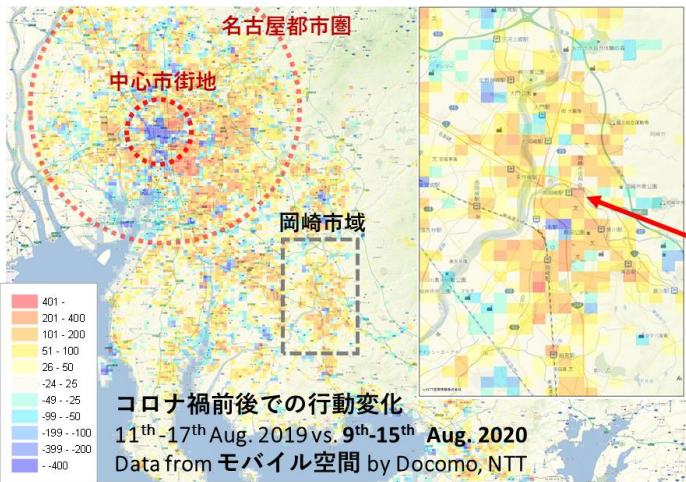
①ビッグデータと現地調査による統合的なエビデンス収集整理

②都市空間とコミュニティ対応による課題克服の提案

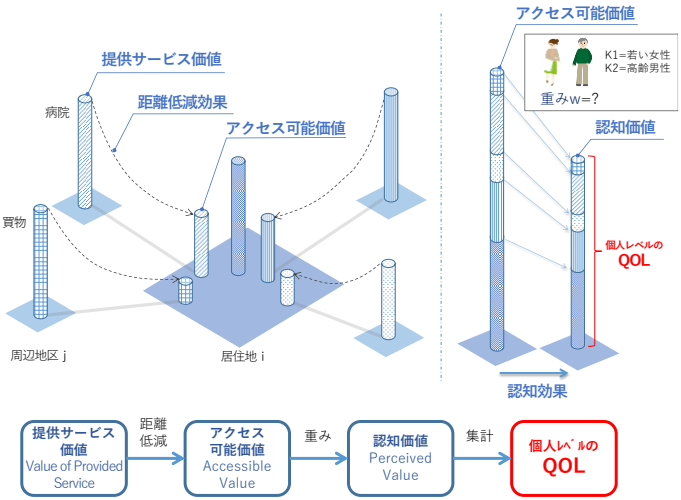
③ディスタンスングとそれに対する脆弱性をQOLの視点から評価する手法構築

- ディスタンスング政策による多様な社会経済的影響のエビデンスを位置情報や決済情報を含む各種データから整理
 - ヒアリングや現地調査による詳細な事例調査と組合せ問題の構造化を実施
- 水辺や道路、公共空間などの都市空間、人口構成・用途構成などの都市構造と各種課題との関係进行分析
 - コミュニティのソーシャルキャピタルが課題の発生と対抗力に及ぼす影響进行分析

- 人々が都市空間から受ける多様な生活の質を、距離関数（アクセシビリティ）として構造化
- 都市機能との距離、自然との距離、人との距離から生活の質が最大化する都市構造や都市政策の提案を実施



ビッグデータによるオープンスペースでの行動変容分析



QOL評価手法の概念